

# G 6（6年） 「福住学」・理科 学習指導案

天理市立福住小中学校 教諭 堀川 淳司

## 1. 単元名 「福住のすてき 発信！！」

～「全国こどもエコクラブ エコ活コンクール」の壁新聞作りを通して～

## 2. 単元の目標

- これまで1年間取り組んできた「福住学」の学習を振り返り、福住校区が自然環境に恵まれていることに気付くことができる。 (知識及び技能)
- 福住校区で季節ごとに行われる伝統行事の歴史や謂れについて調べ、福住校区が歴史的・文化的環境に恵まれていることに気付くことができる。 (知識及び技能)
- 「福住学」で取り組んできた校区の自然環境や校区に伝わる伝統行事を、壁新聞を通して多くの人に伝えることができる (思考力・判断力・表現力)
- 「福住のすてき」を壁新聞で全国に発信し多くの人に伝えることを通して、今後G7～G9の「福住学」で、より意欲的に学びを進める契機とする (主体的に学習に取り組む態度)

## 3. 単元について

### (1) 教材観

本単元では、「全国こどもエコクラブ エコ活コンクール」に応募する壁新聞作りを行う。これまで「福住学」の時間を中心に「福住のすてき」を見つけることをねらいとして、地域河川で生き物探しや専門家を招聘して絶滅寸前種「ヤマトサンショウウオ」の学習会などを行ってきた。そしてその都度、活動の振り返りとして「エコログ」などへの記録や感想文を書いている。

そこで、壁新聞の題名を「福住校区の1年」とし、福住の豊かな自然環境の中でこれまで実践した環境学習や、子どもたちが日常生活で体験している地域の伝統行事を振り返り、それを多くの人に伝えることにした。

### (2) 児童観

福住小学校は、2年前より「福住こどもエコクラブ」として、環境保護活動に取り組んでいる。今年4月に小学校と中学校が統合された現在、福住小中学校の全児童生徒が、「こどもエコクラブ」のメンバー、また全教職員も「サポーター」として活動を行っている。

G6の児童は、今年度G5児童と共に「福住学」の時間を中心に、福住の自然環境について学んできた。児童の中には、特認校制度を活用した校区外からの転学の理由に、「地域河川での生き物探検」を挙げている児童がいる一方、福住校区に生まれ育ちながらも、生き物が苦手なことを理由に積極的に野外での体験的な学習に取り組めない児童もいる。

そこで、自然環境に対して様々な経験や思いをもつ児童が、共通の体験的活動を経験し、それをもとに理科や「福住学」の時間にSDGsに関わる学習を進めることにした。

また、G6は小学部の最終年度であること、また2学期の理科の学習内容に時間的ゆとりがあること、さらに学年担任の協力が得られたことから、今年度も壁新聞作りにチャレンジすることにした。

### (3) 指導観

今年度より本校は、「福住小中学校」(G1～G9)となった。またG1～G6(小学部)においても教科担任制を導入し、「総合的な学習の時間」を独自カリキュラム「福住学」と「情報」の2つの時間に分割した。そのため、環境に関わる学習を進める中核的な時間である「福住学」の時間は、年間35時間のみとなった。

昨年度まで学年担任であった時は、環境に関わる学習を「総合的な学習の時間」だけでなく、理科や社会、国語など教科の学習の時間、さらに「朝タイム」や終わりの会の時間なども活用、また関連付けながら実施してきた。

しかし、今年度は「小学部理科専科担当」として複数学年を担当することになった。そのため、各学年の子どもに関わることのできる時間がかかり限れる。そこでG6担任と協力して理科の授業の中で、テンポのよいメリハリの利いたSDGsの授業作り(壁新聞作り)をめざした。

新聞記事の取材をする学習活動では、クラスのなかまだけでなく、保護者や地域の方とコミュニケーションをとる場面とし、「人対人のダイレクトなコミュニケーション能力」を伸ばす機会としたい。

最後に、日常の授業の中で心掛けていることであるが、子どもたちの「事物を観る目」、「事物から感じる心情」、「感じたことを伝え合うことの喜び」を育てたい。学校での学びを通して、登下校中にいつも何気なく見ていた事物が、今までと違って見えたり感じたりできる子どもを育てたい。また、自分が感じたことを言葉にして他人に伝え、共感を得る喜び、逆に自分の違った感じ方や伝え方をするなかまの意見を肯定的に捉えることのできる子どもを育てたい。そして「ちがいは、豊かさである」ことが、学年・学校、地域の「当たり前」の空気になることを願っている。

### (4) ESD との関連

#### ○ 本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

- ★ 相互性・・・人口減少が進む福住地域において、子どもたちが世代を超えた人たちとの関わり合いを通して「福住のすてき」に気づき、福住校区を「将来も住み続けたいふるさと」、「将来里帰りしたいふるさと」にする必要がある。
- ★ 連携性・・・地域に残る伝統行事は、高齢者が中心となって行われていることが多い。そこで、子どもたちが地域行事の歴史やその謂れを知ることにより、子どもたちが積極的に伝統行事に参画し、世代を超えた地域全体で支えられるように変容を促す必要がある。

#### ○ 本学習で育てたい ESD の資質・能力

- ★ 多面的・総合的に考える力 (システムズ・シンキング)

身近な川で生物を観察する経験を通し、テレビや新聞で報じられている環境問題

が、自分の日常生活と密接につながっていることに気付くことを通し、グローバルな環境問題と自分自身との関連に気付く力を育てたい。

★ コミュニケーションを行う力

地域の環境や地域の伝統行事に関心を持ち、多世代の住民と交流をもつことを通し、ICT 機器等を介さない「人対人のダイレクトなコミュニケーション能力」を育てたい。

★ つながりを尊重する態度

地域行事についての聞き取りで、家庭や地域の方と関わる機会を通し、地域に居住する多くの人との繋がりが、自分の日常生活をより豊かにしていることに気付けるようにしたい。

★ 進んで参加する態度

地域に伝わる伝統行事の大切さに気付き、積極的に参加できるようにしたい。

★ 未来を予測して計画を立てる力

将来、環境保護活動や地域の伝統行事の中心的担い手として活動できるようにしたい。

○ 本学習で変容を促す ESD の価値観

- ・ 自然環境・生態系の保全を重視する価値観（生物多様性の重視）
  - 地域の河川に生息する生物の観察・採取、そして飼育の体験を通し、現在の環境問題は、自分の日常の生活に直接関わる身近な問題であることに気付く。
- ・ 人権・文化を尊重する価値観（文化多様性の尊重）
  - 自分たちが育ってきた福住の文化的環境の歴史的価値・豊かさに気付く。
  - 地域の伝統行事を持続可能な形で、自分たちが守り続ける必要性に気付く。

○ 達成が期待される SDG s

- 15 陸の豊かさを守ろう
- 11 住み続けられるまちづくりを

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
1 「福住学」や理科で学んできた SDGs 学習の内容を理解している	1 身近な川の汚れや散乱したごみなどを見て、その原因を追究したり、解決する方法を考えることができる。	1 身近な川の水質などを守るため、自分たちにできることを行動に移すことができる。
2 地域の伝統行事について、家族や地域の方、クラスのなかまに取材し、まとめることができる。	2 地域の伝統行事の歴史や謂れを知り、自分たちが今後どのように関わるべきか考えることができる。	2 地域の伝統行事の価値に気付き、積極的に参画できる。
3 地域の伝統行事の歴史や謂れについて、文献やイン	3 壁新聞を通して、「福住	3 今回取り上げた地域の伝統行事だけでなく、各家庭で行われる伝統行事にも、積極的に参画できる。

ターネットで調べることができる。	地区のすてき」を多くの人に伝えることができる。	
------------------	-------------------------	--

## 5. 単元の指導計画（全6時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価（△） 備考（・）
0	○事前学習 1 地域河川などで生き物調査を行う 2 地域の伝統行事に参加する	1 必ず記録と写真を残す 2 教室で、行事の紹介をする	ア1 (知・技)
1	1 これまで「福住学」での学習を振り返る 2 自分も参加したことのある地域の伝統行事をピックアップする	1 「エコログ」、日記や作文などを活用する（ポートフォリオ）。 2 地域に居住する児童に個別に声掛けする（区域外からの通学児童に配慮）。	ア1 (知・技) ア2 (知・技)
2	1 「福住学」での学習内容を300字の文章にまとめる。 ・水路、布目川生き物調べ ・稲刈り、稲刈り、脱穀精米 ・干柿作り ・ヤマトサンショウウオ学習会 2 福住校区で行われている伝統行事について、家族や地域の人に取材し、300字の文章にまとめる。 ・山田虫送り、氷祭り、さる祭り、学進祭	1 必要に応じて、「奈良県版レッドデータブック」やヤマトサンショウウオの専門書などを準備する。 2 クラスのなかまに祭りの様子を取材したり、家族や地域の方にも取材する。 3 歴史的な内容で不明な部分は、必要に応じて、地域で作成しているパンフレットや市のホームページなどを参考にする。	イ1 (思・判・表) ア2・3 (知・技)
3	1 文章を何度も推敲し、読み手によりわかりやすい文章に書き直す。 2 適切な写真やイラストを活用し、文章の内容をより分かりやすくする。 3 丁寧な字で清書する。	1 国語科（表現）と関連させて、作文指導を行う。 2 見出しを毛筆にしたり、小見出しを縁取り文字にする工夫をする。 3 国語科（書写）と関連させる。	イ2・3 (思・判・表)
4	○事後学習 1 一年間「福住学」で学習した内容を、日常生活の中でも実践する。 2 地域で行われる伝統行事に積極的に参加する。	1 一連の学習が、ここで完結するのではなく、「ここからスタート」であることを意識させる。 2 地域行事の紹介を継続する。	ウ1 (主体的) ウ2・3 (主体的)